

付着生物ラーバ情報

1 ラーバ等の出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)、オベリア類(通称:クサ)

ラーバやクラゲは見られていませんが(図2、図3)、オベリア類は平成30年2月2日から3月5日まで久栗坂沖で実施した付着基質調査で見られました。

(2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で166.7個体/m³、野辺地沖で124.2個体/m³、川内沖で494.5個体/m³見られました(図4)。また、上記の久栗坂沖と川内沖における付着基質調査でも見られました。

(3) アミクサ(通称:クサ)

小枝は久栗坂沖で0.6個/m³見られ(図5)、上記の久栗坂沖と川内沖における付着基質調査でも見られました。

2 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバは見られず、久栗坂沖の累積ラーバ数が1.2個体/m³と低い値に留まっていることから、**今春の出荷時には大型個体の付着は少ない**と思われま

す。**キヌマトイガイ**のラーバは継続して出現しており、付着基質への付着数も2月より増加しています。例年春季にラーバが多く出現するため、今後も**付着量が増加**すると思われま

す。**アミクサ小枝とオベリア類のクラゲは、今月いっぱい出現**する可能性があります。

なお、**今期2月に東湾のほとんどの水温ブイで、1~2℃台のかなり低い水温が観測されています**。水温が低いとホタテガイの摂餌量が低下するので、余った餌をキヌマトイガイやオベリア類が摂餌することや、ウミセミの付着物捕食量も低下することから、**付着物の重量が増加する可能性があります**。

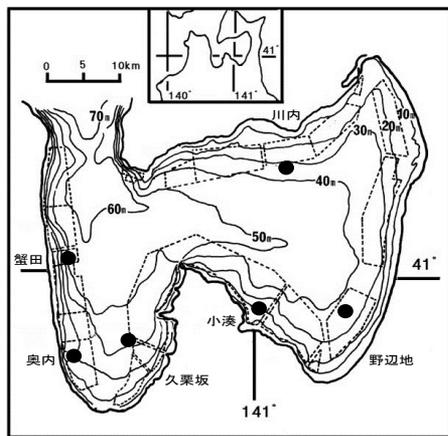


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	単位: 個体/m ³	
					オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
久栗坂沖	H30.3.5	0.0	0.0	166.7	0.0	0.6
野辺地沖	H30.3.7	0.0	0.0	124.2	0.0	0.0
川内沖	H30.3.5	0.0	0.0	494.5	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

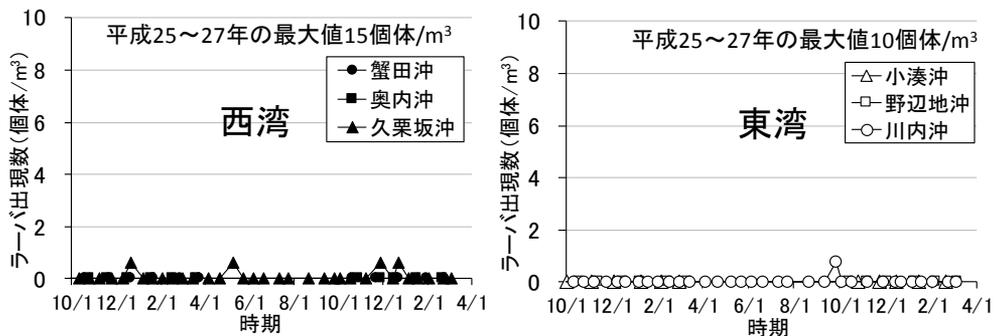


図2 ヲルレバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年3月)

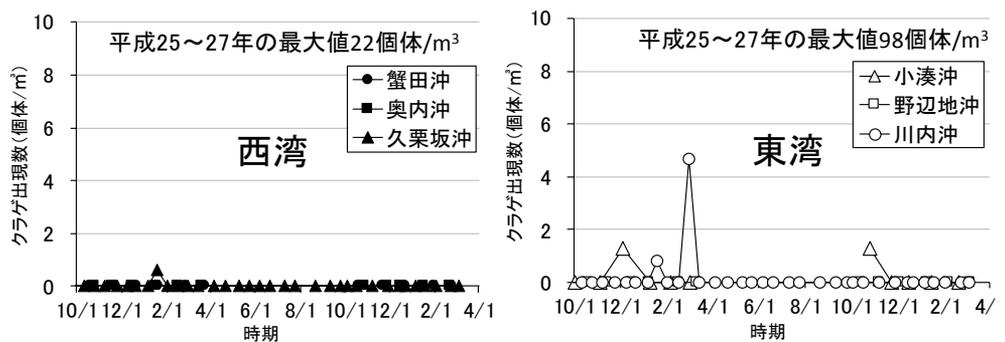


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成28年10月~平成30年3月)

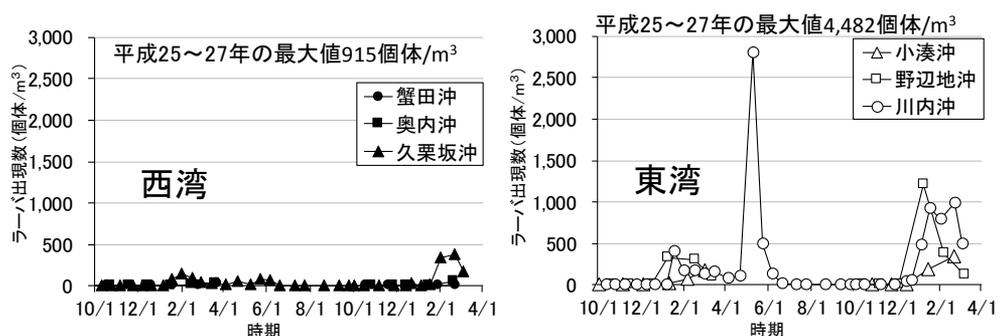


図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年3月)

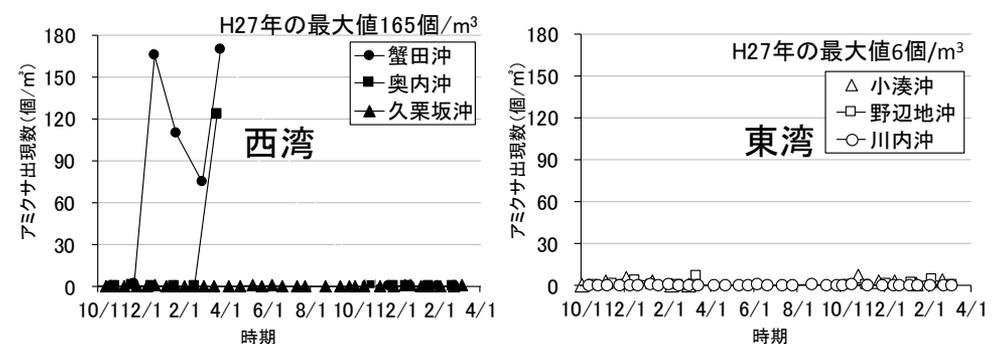


図5 アミクサ小枝出現数の推移(平成28年10月~平成30年3月)

